学校番号	T4001

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究ａ	単位数	４単位	年次	１～４
使用教科書	「世界史探究」（実教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界史探究では人類の誕生から現代社会が形成されるまでの歴史を扱います。毎回各地域や時代ごとの内容をまとめたレポートを配布し、教科書を用いて学習を進めます。そのため、教科書をしっかりと読み、レポートに取り組むことが必要になります。授業では、レポート作成を進めるうえで必要となる基礎的な事項について扱います。成績はレポート、授業、テストの結果を総合的に評価します。

グローバル化が進み、地域や国をこえて人々のつながりが強まっている現代の社会がどのようにして形成されたのかということを意識しながら学習に臨んでください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
人類の誕生から現代社会が形成されるまでの基本的な流れを理解することができる。また、学習内容をもとに現代社会のあり方や課題について地域や社会の当事者としての意識をもちながら探究することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
地域同士のかかわりや地理的条件にも着目し、多角的・多面的に現代社会の形成過程を考察することができる。また、日本の歴史とも関連づけながら世界全体の流れを俯瞰することができる。
【学びに向かう力、人間性等】
学習を通して世界史への興味・関心を高め、世界史を学ぶ意義に気づくことができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・古代から現代にいたるまでの世界の歴史の流れ、基本的な知識を理解することができる。 ・世界史の枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史とも関連づけながら理解することができる。	・地域同士のかかわりや地理的条件にも着目し、多角的・多面的に現代社会の形成過程を考察し、まとめることができる。 ・世界の歴史を、地理的条件、日本の歴史などの様々な要素と関連付けて、実証的・多角的・多面的・批判的に考察し、自分の考えを適切に表現することができる。	・世界史への興味・関心を高め、世界史を学ぶ意義に気付くことができる。 ・世界史の大まかな流れを理解した上で、現代社会のあり方や課題について地域や社会の当事者としての意識をもちながら探究することができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期（	諸地域の歴史的特質の形成	古代文明	a：オリエント文明，インダス文明，中華文明などを基に，古代文明の歴史的特質を理解している。 b：最古の文明が大河の流域にうまれることが多い理由を多面的・多角的に考察し，表現している。それぞれの文明で使用された文字が社会でなぜ必要となったのか多面的・多角的に考察し，表現している。 c：農耕・牧畜の開始から国家の成立までの過程で，最も重要と考えられる変化は何か，主体的に追究しようとしている。身分社会がうまれた背景や権力者たちの特徴を考察し，身分や階級が成立したことによる現代にまで続く問題について，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート
		東アジアと中央ユーラシア	a：秦・漢と遊牧国家，唐と近隣諸国の動向などを基に東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 b：春秋・戦国時代におこった社会・経済的な変化、唐が東アジアにつくりあげた国際関係について，多面的･多角的に考察し，表現している。 c：秦・前漢・後漢それぞれの外交関係の特徴、中央ユーラシアの諸民族が中国の歴史に与えた影響、唐代の東アジアの国際関係を通じて，中国から周辺諸国に伝わったものを挙げ，またそれらがその後の周辺諸国の文化・制度に与えた影響について考え，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート
		南アジアと東南アジア	a：仏教の成立とヒンドゥー教，南アジアと東南アジアの諸国家などを基に，南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。 b：・南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色，東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c：古代インドで仏教が栄えた理由や東南アジアにおける中国文化とインド文化の影響について，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート

		西アジアと地中海周辺	a: 西アジアと地中海周辺の諸国家などを基に，西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 b: 史料「ベヒストゥーン碑文」と Check を活用し，アケメネスの支配の特徴について，アッシリアとの違いも踏まえながら，多面的・多角的に考察し，表現している。アテネの民主政とローマの共和政の違いについて多面的・多角的に考察し，表現している。 c: アケメネス朝の支配の特徴を唐代までの中国王朝と比較することで，その共通点を主体的に追究しようとしている。アテネの直接民主政は，現代の民主政と比べてどのような違いがあるか，またその違いを生み出した理由は何か，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート
		西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成	a: キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に，西アジアと地中海周辺，ヨーロッパの歴史的特質を理解している。 b: フランク王国とローマ教会の関係について多面的・多角的に考察し，表現している。アラビア半島でなぜイスラームが生まれたのか，多面的・多角的に考察し，表現している。 c: 8 世紀にどのような宗教が確立し，それらがそれぞれの土地にどう根ざしたか比較し，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート
	諸地域の交流と再編	イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容	a: 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播，ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 b: 諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，諸地域へのイスラームの拡大の要因，ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c: イスラーム世界が世界の歴史にもたらした影響のうち，最も重要と考えられるものは何か，主体的に追究しようとしている。十字軍運動がキリスト教圏とイスラーム圏にどのような影響を与えたか，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート

		中央ユーラシアと諸地域の 交流と再編	a: 宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 b: 唐の滅亡後にユーラシア東部でどのような変動がみられたか，多面的・多角的に考察し，表現している。 c: モンゴル帝国のもとでユーラシア大陸の一体化がすすんだ要因として，最も重要と考えることを， 東西交流の諸相をふまえながら，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート
		大交易時代	a: アジア海域での交易の興隆，明と日本・朝鮮の動向，スペインとポルトガルの活動などを基に，諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。 b: 諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，アジア海域での交易の特徴，ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c: 大航海時代によってもたらされた変化のうち，最も重要と考えることについて，自身の生活とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート
		アジア諸地域の帝国	a: 西アジアや南アジアの諸帝国，清と日本・朝鮮などの動向を基に，アジア諸地域の特質を構造的に理解している。 b: アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，諸帝国の統治の特徴，アジア諸地域の経済と社会や文化の特色，日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c: イスラーム都市が繁栄した理由について，イスラームの支配下であっても，非ムスリム商人が活動しやすい環境が整備されていたという点に注目し，排他的でない，よりよい社会の実現を視野に，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度